

Economic Indicators

発表日: 2025 年 2 月 7 日 (金)

景気動向指数(2024 年 12 月)

～基調判断は「下げ止まり」で据え置き。一進一退の推移が続く～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

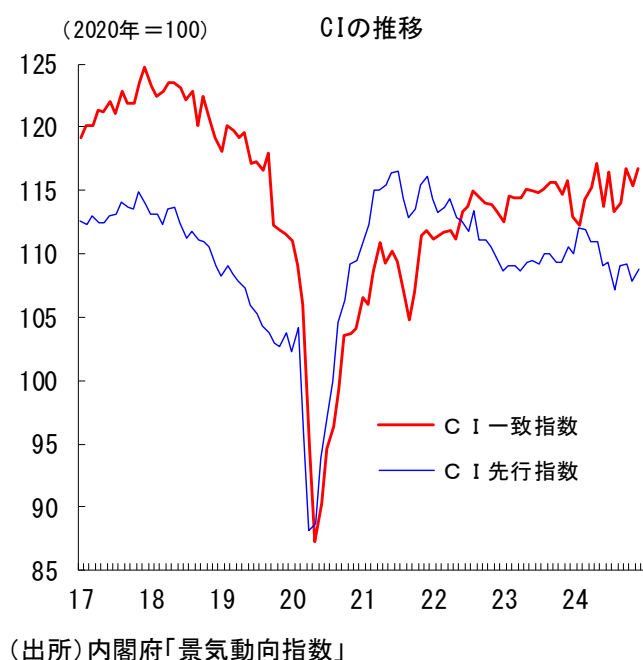
2 ヶ月ぶりの上昇も、一進一退の域を出ず

内閣府から公表された 2024 年 12 月の景気動向指数では、C I 一致指数が前月差+1.4 ポイントとなった。内訳では、輸出数量指数や投資財出荷指数のプラス寄与が大きい。C I 一致指数は 2 ヶ月ぶりの上昇だが、11 月に前月差▲1.4 ポイントと低下していた反動の面も大きい。均してみれば一進一退で横ばい圏内の動きと判断される。

基調判断は「下げ止まり」で据え置き

C I 一致指数の基調判断は「下げ止まり」で据え置かれた。これで 8 か月連続の「下げ止まり」判断であり、C I 一致指数が方向感に欠ける動きが続いていることが改めて示されている。

先行きについても方向感に欠ける動きは続く可能性が高い。12 月の鉱工業生産指数は前月比+0.3%と小幅上昇となり、10-12 月期で見ても前期比+1.3%と増産に転じたが、同時に公表された製造工業生産予測では、1 月は経済産業省による補正試算値で前月比▲2.1%と低下が見込まれるなど、1-3 月期の鉱工業生産が再び減産に転じる可能性も示唆されている。C I 一致指数と連動する傾向がある鉱工業生産についてもやはり一進一退の域を出ていない。C I 一致指数の基調判断も、当面「下げ止まり」が継続する可能性が高いと予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

